

## 1. 案件の概要

### (1) 案件名

(和文) モザンビーク国別研修「教員養成校における現職教員教授法改善」

(英文) Improvement of teaching methodology of IFPs on In-service education and training in Mozambique

### (2) 研修期間

平成 28 年 6 月 27 日～同年 7 月 15 日

(全体受け入れ期間：平成 28 年 6 月 22 日～同年 7 月 17 日)

### (3) 研修員数 10 人

### (4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

## 2. 研修内容

### 案件目標：

初等教員養成校（IFP）学生用教材の作成に向けて、児童中心型及び問題解決型授業の実現に必要な知識・技術への理解を深める。

### 成果：

- 1) 自国の初等算数カリキュラムと IFP の「算数」及び「算数指導法」の講座カリキュラム（ないし年間指導計画）との関連性について説明できるようになる。
- 2) 日本の算数指導法への理解を通じて、自国での児童中心型及び問題解決型授業の実現に必要な知識・技術を特定できるようになる。
- 3) 自国の IFP 学生用教材「算数指導法」の 1 単元分の例（モデル）が作成される。
- 4) IFP 学生用教材作成の手順（プロセス）とポイントを説明できるようになる。

### 成果品：

- A. IFP「算数指導法」講座のカリキュラム及び年間指導計画の改善案（可能なら系統表も）注：両成果品のいずれかに講座目的、到達目標（講座全体及び各単元）、指導内容、配当時間、指導方法及び授業形態、使用教材、評価指標、評価方法、合格基準が明記してあること。
- B. IFP「算数」講座のカリキュラム及び年間指導計画の改善案（可能なら系統表も）注：両成果品のいずれかに講座目的、到達目標（講座全体及び各単元）、指導内容、配当時間、指導方法及び授業形態、使用教材、評価指標、評価方法、合格基準が明記してあること。
- C. IFP 学生用教材「算数指導法」の 1 単元分の例（モデル）
- D. IFP 学生用教材作成の作業手順資料（主要工程フローチャート、各工程の作業内容と成果品、作業上のポイント等）注：PPT での作成も可

## 3. 案件目標（アウトカム）と成果（アウトプット）の達成度

### (1) 案件目標（アウトカム）

#### 案件目標：

初等教員養成校（IFP）学生用教材の作成に向けて、児童中心型及び問題解決型授業の実現に必要な知識・技術への理解を深める。

#### 指標：

研修員が本邦研修終了時に作成する学生用教科書が、活動可能で教育改善に寄与する

レベルに達成しているか確認される。

## (2) 単元目標 (成果)

### 単元目標①：

自国の初等算数カリキュラムと IFP の「算数」及び「算数指導法」の講座カリキュラム (ないし年間指導計画) との関連性について説明できるようになる。

#### 指標：

十分な議論を行う時間が確保できなかったが、事前課題の作成や研修当初の議論等から評価した。

### 単元目標②：

日本の算数指導法への理解を通じて、自国での児童中心型及び問題解決型授業の実現に必要な知識・技術を特定できるようになる。

#### 指標：

研修員が小学校現場での授業観察及び研修員による授業実施後に授業に関する意見を整理し、その記述が4段階評価のB (やや優れている) 以上であること。

### 単元目標③：

自国の IFP 学生用教材「算数指導法」の1単元分の例 (モデル) が作成される。

#### 指標：

研修員が研修中に作成したモザンビーク IFP における算数科教育法授業改善のための教科書作成過程での発言や記述に対する評価が4段階評価でB (やや優れている) 以上であること。

### 単元目標④：

IFP 学生用教材作成の手順 (プロセス) とポイントを説明できるようになる。

#### 指標：

本研修で研修員が経験した教科書作成の過程を想起し、その手順の説明により評価を行った。